

第2学年4組 国語科 学習指導案

令和5年9月27日(水) 第5校時

単元名：読んだことと自分の体験とをつなげよう「どうぶつ園のじゅうい」(光村図書)

男子17名 女子12名 計29名

指導者 海田町立海田南小学校 野崎 由美

単元について

○ 単元観

- ・本単元は、小学校学習指導要領国語科第1学年及び第2学年の内容、思C(1)ア「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。」オ「文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。」を受けて設定したものである。
- ・本教材文「どうぶつ園のじゅうい」は、動物園獣医師の1日の仕事の様子が書かれている。「朝」「お昼前」「夕方」などの時間を表す言葉が段落の冒頭に記されており、時間的な順序を捉えやすい。時間的な順序を捉えることで文章の内容を理解しやすくなるであろう。
- ・言語活動として、「獣医師や医師(看護師)、歯科医師の仕事の説明した文章を読み、文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想を伝え合う活動」を設定した。並行読書で医師(看護師)や歯科医師、動物病院の獣医師の仕事を紹介した本を読み、教材文ともつなぎ合わせながら、文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもたせていく。病院への受診や学校での健康診断など、医師との関わりはどの児童にもあり、自分の体験と結び付けて感想をもちやすいと考えた。

○ 児童観

《本単元と関連する既習内容と学習方法》

- ・第1学年では、「どうぶつ園の赤ちゃん」の教材文を通して、2つの対象を比べて読み、特徴の違いなどを捉える学習を行っている。
- ・第2学年では、「たんぽぽのちえ」の教材文を通して、時を表す言葉をヒントに、時間によって変わっていく事柄の様子を捉える学習を行っている。
- ・文章を読んで感想をもつ学習は、国語科をはじめとして、さまざまな学習活動で取り組んできているが、文章の内容と自分の体験とを結び付けて解釈し、理解を深めた上で感想をもつ学習は、今回が初めてである。

《レディネステストから》

- ・「広島県学びの基盤に関する調査『ことばのたつじん その1』」[\[2\]](#)(5)では、時間を表す言葉の意味が問われているが、本学級の正答率は48%であった。
⇒時間を表す言葉の意味を曖昧に捉えていたり、言葉の意味自体を知らなかったりする児童が多くいる。
- ・文章と自分の体験とを結び付けることができた児童は93%、そこから解釈し、理解を深めることができた児童は48%であった。
⇒簡単な文章であれば自分の体験と結び付けることはできるが、そこから分かることを考え、理解を深めることに対しては課題がある。

○ 指導観

文章の内容を、自分が既にもっている知識や実際の経験と結び付けて解釈し、理解を深めた上で感想をもつことができるようにするために、以下の3点に留意して指導を行う。

- ・時間を表す言葉に着目させ、数直線化して板書することで、時間の経過を捉えやすくし、時間を表す言葉の意味の定着を図るとともに、文章の内容理解へとつなげる。
- ・文章の内容と自分の体験とを結び付けるために、ワークシートの工夫を行う。文章のどの部分と自分のどのような体験が似ていたり異なっていたりするかを、線を引いたり簡単な文章に表したりできるようなワークシートにする。
- ・言語活動の設定において、本学級の児童は、生活科の学習でバッタやダンゴ虫などの生き物の飼育経験はあるが、1週間程度の短期間であること、また、学校での小動物の飼育経験がないことなどから、全員が本教材文の獣医師と同じような視点で、文章と自分の既有的知識や経験とを結び付けて解釈することは難しいと考えた。そこで、医師(看護師)や歯科医師、動物病院の獣医師の仕事の工夫に着目し、自分の体験と結び付けて文章を解釈し、理解を深めて感想をもつという言語活動を設定する。世話をしたり治療したりする立場での視点だけではなく、治療をしてもらう立場での視点からも結び付けができるよう設定することで、既有的知識や経験を想起しやすくなり、文章への理解が深まり、自分の考えを形成する力が育成できるのではないかと考えた。文章との関連を考えながら、実際の経験が想起しやすくなるようにしていきたい。

単元の目標

○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。

【知識及び技能】(2)ア

○時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。

文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。

【思考力、判断力、表現力等】C(1)ア、オ

○言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

【学びに向かう力、人間性等】

単元の評価規準

獣医師や医師（看護師）、歯科医師の仕事の説明した文章を読み、文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想を書きまとめる活動 【言語活動例 ア】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 (2)ア	「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 C(1)ア 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 C(1)オ	進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、学習の見通しをもって考えたことを書きまとめようとしている。

本質的な問いを基にした単元計画構想

①本質的な問い	自分の考えをもつことにどのようなよさがあるのだろう。
②単元を貫く問い	文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもつには、どうしたらよいだろう。
③個別の問い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 筆者は、いつ、どんな仕事をしているのかな。 ・ 医師（看護師）や歯科医師、動物病院の獣医師は、いつ、どんな仕事をしているのかな。 ・ 文章を読んで、自分の体験と似ているところや違うところはないかな。 ・ どんなところが似ていて、どんなところが違うかな。 ・ 文章と自分の体験から、どんなことを考えたかな。

【単元計画構想】

- ① 「文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもつ」という学習課題を知り、学習計画を立てる。
- ② 「どうぶつ園のじゅうい」を読んで、筆者が、いつ、どんな仕事をしているのかを捉える。
- ③ 文章の内容と自分の体験の似ているところや異なっているところを整理する。
- ④ 並行読書した医師（看護師）や歯科医師、動物病院の獣医師の仕事についても、いつ、どんな仕事をしているのかを捉え、自分の体験と結び付けて整理する。
- ⑤ 整理して考えたことを文章にまとめ、グループ交流をする。

指導と評価の計画

次	時	学習内容	評価規準（評価方法）		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
一	1	「文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもつ」という学習課題を知り、学習計画を立てる。			

二	2	教材文「どうぶつ園のじゅうい」を読み、時間を表す言葉に着目しながら、筆者の1日の仕事の大体を捉える。			
	3 4 5 6	筆者が動物たちに対して、なぜその仕事をするのか、また、その仕事をする際の工夫について捉える。			
	7 8	文章の内容と自分の体験の似ているところや異なっているところを整理し、感想を書く。	○共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 (発言・ワークシート)		
三	9	並行読書してきた医師(看護師)や歯科医師, 動物病院の獣医師の仕事について, 仕事の大体と工夫を捉える。		○「読むこと」において, 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら, 内容の大体を捉えている。 (発言・ワークシート)	
	10	文章の内容と自分の体験の似ているところや異なっているところを整理し, 感想をもつ。【本時】		○「読むこと」において, 文章の内容と自分の体験とを結び付けて, 感想をもっている。 (発言・ワークシート) 【十分満足】 ・文章の内容と自分の体験の似ているところや異なっているところを結び付けて自分の体験に基づいた解釈をし, 理解したことを明確にした上で感想をメモに表している。 【おおむね満足】 ・文章の内容と自分の体験の似ているところや異なっているところを結び付けて理解したことと, 文章の内容に対する感想をメモに表している。	
	11	整理したメモをもとに, 感想を書く。			○進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち, 学習の見通しをもって考えたことを書きまとめようとしている。(行動観察・発言・ワークシート)
	12	感想を伝え合い, 学習のまとめをする。			

本時の学習

(1) 本時の目標

文章の内容と自分の体験の似ているところや異なっているところを結び付ける活動を通して, 文章の内容の理解を深め, 感想をもつことができる。

(2) 本時の評価規準

・「読むこと」において, 文章の内容と自分の体験とを結び付けて, 感想をもっている。

(思考・判断・表現)

(3) 本時の学習展開 (10 時間目 / 全 12 時間)

<p>学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応</p>	<p>◇指導上の留意事項 ★目標達成のために特に意識した手立て ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て</p>	<p>評価規準〔観点〕 (評価方法) ◎本時で付けたい力</p>
<p>1 既習事項の復習をする。 ○前の時間は、自分が選んだ仕事について、その仕事の中身と工夫をまとめましたね。 ○自分の体験と似ているところや違うところが見付けられましたか。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。 ○今日は、文章と、自分のどのような体験が似ていたり違っていたりするのかを整理しながら、感想が書けるようにしていきますよ。</p>	<p>◇前時の学習で、文章の中から自分の体験と似ているところや違っているところを意識させておくことで、本時とのつながりをもたせる。</p>	
<p>④文しようと自分の体験をつなげて、かんそうをメモにまとめよう。</p>		
<p>3 文章と自分の体験とを結び付け、メモに表す。 ①自分の体験と似ている箇所に線を引く。 ②線を引いた箇所をワークシートに書き出す。 ③自分のどのような体験と結び付けかを書く。 ④文章と自分の体験から分かったことや考えたことを書く。 ⑤文章の内容に対しての感想を簡単にまとめる。</p>	<p>◇文章と自分の体験を結び付けやすくするために、ワークシートを用意する。 ★左の①～⑤の手順で整理させることで、文章と自分の体験を結び付けて解釈し、理解を深められるようにする。 ◇自分の体験を想起できるようにするために、病院での診察の様子などの写真を提示したり、教師の体験を紹介したりする。 ◆自分の体験を想起できにくい児童には、個別で声をかけ、文章に戻りながら想起させていく。</p>	
<p>見方・考え方を広げる</p>		
<p>4 グループ交流をする。 ○2つのことを確かめましょう。 ①文章と体験がきちんと結び付いているか ②文章を読んだ感想がまとめているか。</p>	<p>◇グループは、同じ文章を選んだ者同士で編成する。 ◇左記の観点に沿って確かめを行ったり、友達のメモを見て思ったこと(自分と同じだななど)を交流したりするよう指示する。 ◆メモが完成できていない児童には、友達の交流での発言やメモを参考にするよう促す。</p>	
<p>5 自分のメモを見直し、再考する。</p>	<p>◇交流を経て、見直したい箇所があれば、書き直すよう声をかける。</p>	<p>◎「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 〔思考・判断・表現〕 (発言・ワークシート) 【十分満足】 ・文章の内容と自分の体験の似ているところや異なっているところを結び付けて解釈し、理解したことを踏まえて感想をメモに表している。</p>

<p>6 本時を振り返り、次時の活動を 知る。</p>	<p>◇次時は、今日のメモを基に、友達に伝える 文章を書くことを伝える。</p>	<p>【おおむね満足】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章の内容と自分の体験の似ているところや異なっているところを結び付けて、感想をメモに表している。
---------------------------------	--	--

目指す児童のつぶやき

文章と自分の体験を結び付けるって、自分のしたこと（されたこと）と〇〇
なところが同じだなとか似ているなとか、違くなっていうことを思い出して
くっつけるってことか！

(4) 板書計画

① 文しようにせんをひく。

② ひいたところを書き出す。

③ 自分のどんな体けんとつながるかを書く。

④ 文しようと自分の体けんから分かったことや考えたことを書く。

⑤ 文しよのかんそうをかんとんにまとめる。

医師（看護師）の仕事の写真

歯科医師の仕事の写真

動物病院の獣医師の仕事の写真

自分の体けん

つなぐ

ちがう

同じ

にている

どうぶつ園のじゅうい

④ 文しようと自分の体けんをつなげて、かんそうをメモにまとめよう。

(5) 評価の具体及び手立て

評価規準【「おおむね満足できる」状況（B）】		「努力を要する」状況（C）と判断した児童への指導の手立て
<p>思考・判断・表現</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>④ 文しよを読んでのかんそう</p> <p>びょういんの先生は、かんじやさんのようすをくわしく知って、びょう気をなおそうとがんばっているんだなと思った。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>① 自分の体けんとにているところ</p> <p>びょういんの先生</p> <p>けがをしたり、ぐあいかわるかったりするところをかんじやさんから聞く。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>② どのところがにている？</p> <p>びょういんに行ったときに、</p> <p>びょういんの先生から、ねつがあるか、ちょうしがわるいかなどを聞かれた</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>③ 二つをいっしょに見て、どんなことに気がついたかな。どんなことが分かったかな。</p> <p>びょういんの先生は、かんじやさんのようすを知りたいということが分かった。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>どうして、先生は、そのようなことをしたのかな？</p> </div>	<p>◆自分の体験を想起できにくい児童には、個別で声をかけ、文章に戻りながら想起させていく。</p> <p>◆①②を結び付けて理解を深める場面では、「どうして先生は、あなたにそのようなことをしたのかな。」と投げかけ、その行動の理由を考えさせることで理解を深められるようにする。</p> <p>◆掲示してある教材文でのメモの書き方を参考にさせる。</p>

指導の実際

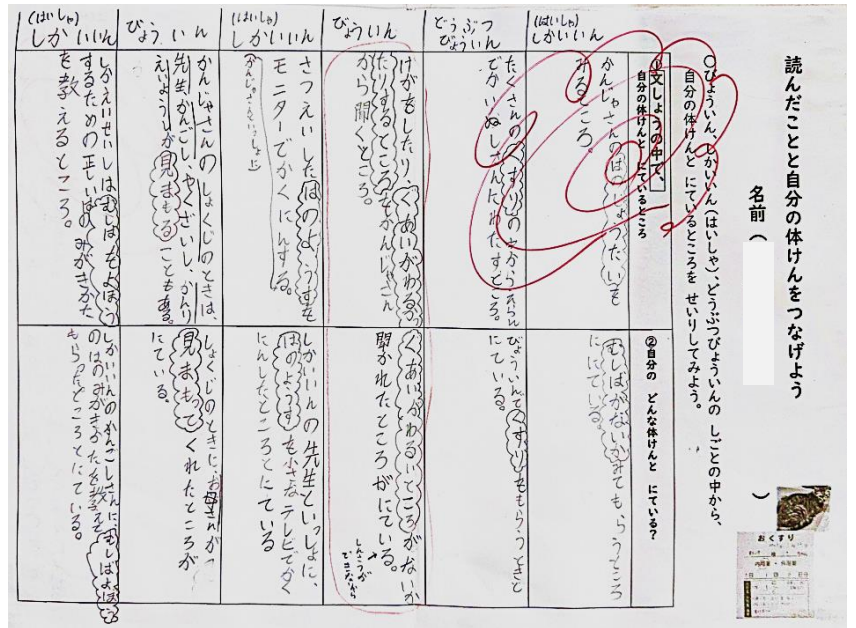
(1) 指導上の工夫

① 並行読書の取組

本単元では、言語活動を「獣医師や医師（看護師）、歯科医師の仕事を説明した文章を読み、文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想を伝え合う活動」と設定し、並行読書を取り入れた。単元の後半に用いる資料を全員に配付し、読書タイム等を活用して、文章の内容と自分の体験とを結び付ける活動を継続的に行った。また、筆者が書いた本を単元の始めに紹介し、考え聞かせを行うことで、教材文への関心を深め、児童が自由に本を手にして、教材文の内容をより深められるようにした。

② ワークシートの工夫

教材文に書かれていることから自分の体験と似ているところや違うところを見付ける際、簡単にメモができるような教材文シートを活用した。毎時間、教材文の学習の終わりに、自分の体験と似ているところや違うところに線を引かせ、その側に対応する自分の体験を書き込むようにした。その後、そのシートを見ながら構成シートに記入させることで、文章の内容と自分の知識や経験とを結び付けて解釈し、理解を深められるようにした。また、並行読書で読んでいた文章と自分の体験とを結び付ける際にも、類似のワークシート



(右写真)を活用した。同じような活動を繰り返し行ったことで、この単元以降に行った、文学的な文章での「考えの形成」の学習では、本学級の児童の約7割が教材文シートや構成シートを活用したいと言ったことから、同じ形式のワークシートを使って学習を進めた。このことから、児童にとって今回のワークシートの活用は有効であったと考える。

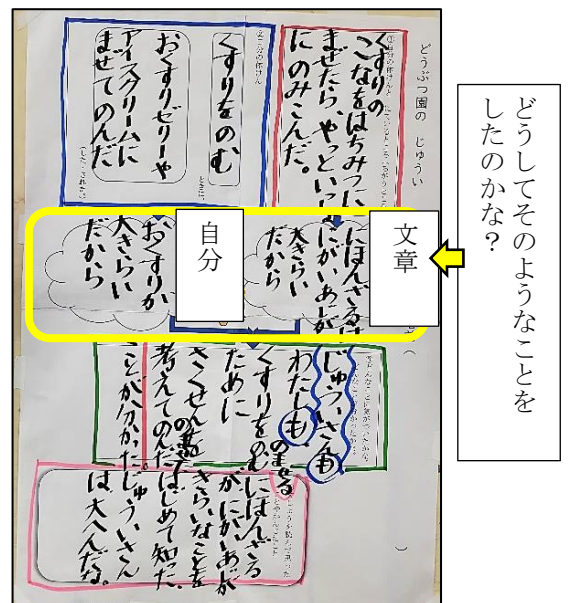
(2) 児童のつまずきと実際に講じた手立ての具体

① 教室掲示の工夫

並行読書で読んできた文章と自分の体験とを結び付ける際、教室に掲示しておいた既習のワークシートの記入例が大変有効であった。どのように整理したらよいかわからない児童も、一つ一つ確認しながら行うことで、整理の仕方をよく理解し、抵抗なく書くことができた。

② 文章と自分の体験をどのように結び付けるのか

文章と自分の体験から、どんなことに気付いたかを考えやすくするために、獣医師や自分などが、「どうしてそのようなことをしたのかな?」と、その行動に至ったわけを記入させるようにした。行ったことだけが似ているわけではなく、その行動をした理由にも似ているところがあったり、反対に、行動は似ていても、理由が違うところがあったりすることに気付くことができ、文章と自分の体験を結び付けて理解を深める手立てとなった。



③ グループによる確認

文章の内容に対して思いをもつために、どのような体験と結び付けようとしているか、そして、それが内容的に結びつくものとなっているか、また、体験したことが分かるように感想を表しているかな

ど、お互いの構成シートを見ながらグループで確認をさせた。同じ文章を選んだもの同士でグループを編成したため、体験自体も友達と似ているものが多く、共感しながら確認をしたり、友達に教えたりする場面が多く見られた。このグループによる学びは、指導者が思っていた以上に有効であった。

評価の実際

(1) 評価の具体

①自分の体験と「読むこと」をつなげよう

②自分の体験

③どんなことに気づいたかな。どんなことがあったかな。

④文しよる読んで思ったことかんとこと

名前()

「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっているかどうか

本児童は、「おおむね満足できる」状況(B)とした。左の写真は、並行読書で読んだ文章の構成シートである。文章と自分の体験を結び付けて気づきを書き、それを基に感想をメモすることができている。

下の写真は、構成シートに表したもののから、感想を伝え合うために文章化したものである。構成シートの順序を生かして文章化できている。

(まいめ)

と	な	ん	だ	と	思	い	ま	し	た。	ま	し	た。	知	ろ	う	と	し	て	い	る	こ	と	に	気	が	つ	き	た	し	を	見	て	く	れ	た	先	生	も	、	か	ん	じ	わ	た	し	は	、	本	の	中	の	先	生	も	わ	わ	し	た。	か	し	ん	ど	く	は	な	い	か	、	聞	か	れ	ま	と	き	は	う	け	つ	け	で	、	ね	っ	は	、	な	い	す。	わ	た	し	も	、	び	よ	う	い	ん	へ	行	っ	た	と	こ	ろ	を	か	ん	じ	や	さん	か	ら	聞	き	ま	た	り	、	ぐ	あ	い	が	わ	る	か	、	た	り	す	る	ひ	よ	う	い	ん	の	先	生	は	げ	け	が	ま	も
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(まいめ)

(2) 児童の評価

- ① 「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができた児童は、96%であった。ほとんどの児童が時間的な順序や事柄の順序を理解し、内容の大体を捉えることができていた。
- ② 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができた児童は、68%であった。そのうち、文章の内容と自分の体験から気付いたことや分かったことについて、93%の児童は書くことができた。文章の内容と自分の体験とを結び付けたことから、何かに気付くことは多くの児童ができていたが、それらをさらに感想へとつなぐことができた児童は少なかった。
⇒文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことが難しかった「努力を要する」状況(C)の児童に対しては、次のような手立てを行った。

- (1) 文章や児童の記述に戻りながら、文章の内容と自分の体験から気付いたことや分かったことを個別で確認した。
- (2) 「どうして病院の先生は、こんなことをしたのだと思う?」「じゃあ、あなたも似ていることをしている(されている)けど、どうしてそんなことをしたのかな(されたのかな)?」のように、再度児童に投げかけることで、そのようにしたりされたりした行動の意味を一緒に考えた。そして、それぞれの医師の思いを想像したり、その時の児童の状況や思いを想起させたりしながら、感想へとつなげるようにした。

個別指導によって考えをもたせたり、体験時の状況や思いを想起させたりすると、口頭では様々な発言が聞かれ、文章化できた児童もいた。しかし、文章化できても理解を深めた感想へとつながらない児童もあり、更なる手立てが必要であった。

成果と課題

(1) 成果

- ・ワークシートを、文章の内容と自分の体験とを構造的に結び付けられるよう工夫し、類似のワークシートを繰り返し使用して考えを形成していったことで、児童は、「自分と比較して読む」という読みの方法を獲得することができた。
- ・児童が抵抗なく学習に取り組むために、既習提示が非常に有効であった。
- ・目的のはっきりした話合いやグループ活動により、児童の学びを深めることができた。

(2) 課題

- ・文章の内容と自分の体験を結び付けることを通して気付いたり分かったりしたことが、文章を読んだ感想に生かされていない児童が多かった。また、「努力を要する」状況(C)の児童に対しての手立ても、対象児童全員に対して有効なものではなかった。

(3) 今後に向けて

- ・文章を読んで感想をもつ際に、思ったことだけにならないようにするために、自分の体験を十分想起する時間を与えたり、共通の体験からさまざまな出来事を一緒に想起したりするなどして、自分の体験を生かした感想のもち方を身に付けさせていきたい。
- ・「努力を要する」状況(C)の児童に対する指導の手立てを見直し、形成した考えを表現できるようにしていく。

付録 選書リスト

書名	著者名	出版社名
名人はっけん! まちたんけん ①つくるひと	鎌田 和宏	学研プラス
名人はっけん! まちたんけん ②お店のひと	鎌田 和宏	学研プラス
名人はっけん! まちたんけん ③くらしをささえるひと	鎌田 和宏	学研プラス
名人はっけん! まちたんけん ④まもるひと	鎌田 和宏	学研プラス
どうぶつ園のじゅうい びょうきやけがをなおすしごと	植田 美弥	金の星社